ましたが、見てる中に顏は眞青に變はり、兩方の眼に、涙を一杯溜めたまゝ、默つて王を見上げ奉つりました。

で、王は、「あゝイヂラシー若者よ」と覺し召されましたが、一向にお氣の付かれぬ御氣色を裝はれて

『どーしたのか』

とお尋になられました。給仕は恭々しく膝まづきながら、聲を振はし

『あー陛下、誰かが微臣を陷れ樣とします、微臣は此お金のことは、何にも存じませぬ。』

王は

『おー、神を信ずる者には、神が眠りの中にお授け下される。それは、神の賜じや。早速それをお母さんに送つてやれ、そして朕は、これからいつもお前ら親子を心に懸て居ると申し遣はして、早く安心させるがよい』

今の前まで、一方ならぬ苦悶に胸を痛めた給仕は、このお情け深い主君の賜とお言葉とを拜受して、忽筆や言葉に述べ盡せぬ喜悅に心を躍せましたが、此から後は、益々一生懸命に忠勤を勵みましたとのことでございます。

前號考へ物の解

(一)いる時のいらぬもの、いらぬ時のいるものは
　答　風呂の蓋

(二)世の中に、眞直でたてぬものは、答　屏風。

(三)頭がなくて帽子あり、足あれど靴なし、答　菌子

(四)やり違ひの紐は　自分で出來るでしよー。

この次の考へ物

(一) Unite（結付る）といふ言葉の中、一字だけ置き代へると全く反對の語になります。あて、ごらん。

(二) 自分のものであつて、自分よりも自分の友だちに多く使はれるものは、なんでしよー？

(三) 脊の高い人は。いつも怠者だといはれる譯は、なぜでしよー？

家庭

子供を叱ることに付きて

ふみ子

兼て待ちもうけて居た夏休も來ましたので、去る十日には愛らしい兒等と、しばしの別をつげて歸宅いたしました。處が休になりましてからは、ほとんど連日降りつゞいて居りますので、引こもつて、かれこれと用事をかたづけて居りましたが今日は、めづらしくも好い天氣になりましたから勇みたつて、さる知人を訪問するために、出かけ